

集会宣言（案）

チェルノブイリ原子力発電所の事故の年に生まれた子どもは、いま、30代半ばになりました。何と長い時間でしょう、わたしたちはいまだ、核による発電をやめていません。この原発事故により、わたしたちは、核による発電、すなわち原子力発電がひとたび事故を起こせば、地球規模の影響が起こることを知りました。

いま再び、チェルノブイリ原発がわたしたちに警鐘を鳴らします。2月24日からのロシアによるウクライナ侵略では、原発施設そのものがロシア軍の人質になっています。想像ではなく、現実の戦争で、原発が標的になることがはっきりしました。

原発はただの発電施設ではありません。事故や戦争で壊れたとき、漏れ出す放射能を止めることは誰にもできません。

東京電力福島第一原発事故の年に生まれた子どもは、いま、小学校高学年です。11年たったいまも、原発事故は続いています。国と東電は原発事故で被災した福島の人々の補償を最優先にして、事故の責任を認め、全力で事故の収束をしてください。

二度と原発事故を起こしてはなりません。もう、原発をつくるのはやめて、いま在る原発も止めましょう。

山口県の上関に原発は絶対に要りません。原発計画が浮上してから40年間、原発を建てさせない声は引き継がれ、止まることなく広がっています。

村岡県知事は、上関原発建設予定地の海の埋め立てを止めることができます。いまこそ、原発計画を終わらせてください。

わたしたちは、ふるさとの自然を大切にしたい。世界のどこにも原発はいりません。

子どもたちと、まだ生まれていない子どもたちに、平和な未来を手渡すため、原発のない世界に、いま、変えるときです。

2022年3月12日

さよなら原発アクション in やまぐち参加者一同